

高校生との意見交換会を終えて

投票率の低下や議員のなり手不足は全国で深刻化しており、瑞浪市議会においても同様の課題を抱えています。この課題を解決するためには、議会と議員の役割を市民の皆様にしかりとご理解いただき、多様な人材の議会への参画を推進していくことが重要です。特に、将来の地方自治を担う子どもたちが、住民自治の根幹をなす地方議会への関心を高め、理解を深めることが重要であり、議会が主権者教育に積極的に取り組んでいく必要があります。

瑞浪市議会では、令和4年1月に当時の高校2年生を対象としたアンケート調査を実施しました。調査結果によると、市議会の活動に関心がないと回答した生徒の割合は92.5%で、その理由には「議会を身近に感じたことがないから」、「議会の役割や議員の仕事がよくわからないから」などといったことが挙げられました。

このため、高校生に議会を身近に感じてもらい、議会や議員の活動、議会の仕事を知ってもらうことを目的として、市内の3つの高校に出向き、高校3年生を対象とした議会報告会を開催しました。

意見交換では「駅北複合公共施設を利用したくなる施設にするためには」、「瑞浪市を住みたいと思える魅力的なまちにするためには」、「高校生が考える人口減少対策」、「政治に興味を持つためには」の4つのテーマでグループワークを行い、多くのご意見をいただきました。いただいたご意見については整理、分類し、今後の議会での議論に活かしていきたいと考えています。

実施後のアンケートでは、95.8%の生徒が「今後も開催するとよい」と回答しており、議会を身近に感じ、議会や議員の仕事を知っていただく良い機会となったと考えています。生徒の皆様が今後の進路を決定する際には、今回の議会報告会がきっかけとなり、政治家という職業が選択肢の一つに挙がることを願っています。

結びに、議会報告会の開催にあたりご理解、ご協力いただきました校長先生をはじめ教諭の皆様、ご参加いただきました生徒の皆様に心より感謝申し上げます。

議会広報広聴委員会
委員長 奥村 一仁